



世界へのプレゼントになろう

2015-16年度 国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長 / 鈴木 清詞 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 江松 央統
 ■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

第1145回

2015年8月4日(火) 晴 第5回

～ 会員増強・拡大月間 ～

齊 唱 君が代、奉仕の理想
 出席 会員 55名 (出席率算入人数 49名)
 出席 41名 出席率 83.67%
 前々回補填率 89.13% (7月21日分)
 ゲスト 米山奨学生 楊 光心さん

8月の誕生日

2日 有川 英敏さん 11日 三浦 和人さん
 14日 加藤 英敏さん

配偶者誕生日

2日 鈴木光世子さん

8月の結婚記念日

12日 白藤 憲雄さん

会長あいさつ

会長 鈴木 清詞さん

皆さま、こんばんは。

先日、出張で中国へ行ってきました。今、中国では1元が21円です。十数年前にRCのメンバーと行った時は12円でしたので、近年中国の方が大挙して押し寄せて爆買いといわれていますけれども、彼らにとってみれば5割以上安い訳です。一時、日本の女性が韓国へ爆買いに行ったのと同じような事が日本でも起きているのではないかと思います。

さて、私の会社も中国の蘇州に工場があるのですが、ここへきて非常に景気が悪くなっています。中国の錬金術というのは、元々無料の土地を工業団地にして有料で売ったものだから、地域にお金が沢山入って来ました。そのお金を、地域の共産党員の偉い人が1平米幾らと決める権限を持っているので、交渉次第で高くなったり安くなったりするのです。当然安くして欲しいから色々な手を使って交渉をします。結果、彼らはどんどんお金持ちになっていくというスタイルです。

今でこそこんな事はありませんが、会社を作る時は日本人だけでは作れなくて、責任者に中国人を置くという法律がありました。董事長というのが一番



偉く、日本から総経理が行くというのが普通で、董事長をその地域の名士の中国人にし、その人に日本の社長級の給料を払うという格好になります。本人は会社にも出て来ないですし、総経理が日本から行って一生懸命仕事をしますのほとんど仕事もありませんが、何かトラブルが起きた時は口利きをしてくれます。その給料というのは、本人のポケットに入ります。本人は共産党から給料を貰って、尚且つ色々な会社から名義貸しのような事でお金がどんどん入るというスタイルです。会社ができれば法人税も入るし、そこで働いていた人達の所得税も入るとい事です。

少し前までは、会社に入ると住宅が支給されました。その住宅は返さなくて良いものでした。法律が変わって、今は自分で買わなければいけません。自分で買わなければならなくなったのでローンを組んで買う訳ですが、当然の事ながら、そうなればどんどんインフレにしていけないといけません。買った物の価値がどんどん上がっていけば文句は出ないという事で、不動産バブルが起きたというのが実態です。

それから、株のバブルみたいなものが起きたりと、今、色々問題が起きています。そういう意味では、早くから目を付けた人というのは、ものすごくお金持ちになっています。私と同業の中国人ですが、不動産で300万円が1億円になったと喜んでます。それほど格差が激しいのです。

中国へ行くと、人が大都市にもものすごく集中しています。何故かという、少し田舎へ行くと何も無いです。コンビニもありません。日本だと少し離れても同じような生活レベルですが、中国だと少し街から離れるとすごく不便な生活になります。街中は非常に便利ですから、都市に集中するという訳です。

こんな状況で、今、不動産バブルがはじけたような格好になっていますので心配ですが、一番お金を持っている人達が上の方に居ますので、バブル崩壊はしないだろうと思います。非常に特殊な国なので予測は難しいですが、僕はそう思います。

幹事報告

幹事 坂本 晃さん

1. 来週8月11日(火)は、お盆のため休会となります。事務局も、ガバナー事務所と同様に8月8日～16日まで夏期休暇です。その間に何かございましたら、坂本までご連絡をください。

◆ 本日は米山奨学生卓話です。暑い日が続いています。健康にご留意下さい。

伊藤 圭一さん 安藤 修さん 新原 尚さん
 長尾 浅吉さん 川瀬 悟さん 江松 央統さん
 猪村 美之さん 宮崎 良一さん 木村 猛さん
 犬飼りさ枝さん 木下 福郎さん 小嶋 招啓さん
 坂本 晃さん 水野 俊男さん 鈴木 清詞さん
 牧野 好弘さん 三島多恵子さん 鈴井 一博さん
 久米 伸治さん

◆ 米山奨学生の楊さんの卓話です。とても楽しみにしています。又、今日私事ですが中国の20年来の友人が北京から来てくれました。何かご縁を感じます。 大橋さなえさん

◆ 楊さん、卓話楽しみにしています。

大平 明子さん

◆ 昨日から、台湾の女子高生がホームステイで我家に来てます。楽しいです。 出田真太郎さん

◆ ターンベリーはじめ、スコットランドとアイルランドで7ラウンドしてきました。20度以上の気温差にまっています。 入谷 直行さん

本日合計 24,000円 累計 132,000円

米山奨学生卓話

■米山記念奨学委員会 委員長 大橋さなえさん
 皆さま、こんばんは。今から楊さんに卓話をお願いしますが、その前に少し米山記念奨学事業についてお話しさせていただきます。

この事業は、日本のロータリアンが作り育てました国際奉仕プログラムです。国際奉仕と世界平和の強い願いの基に作られました。現在、年間720名の奨学生を支援しております。その中には、楊さんのように海外からいらした留学生の方や、日本から海外で学びたいという留学生の方が含まれております。

この支援事業は、国に次いで第2番目で、民間としては最大の規模の事業となっております。世界では、色々な困難な情勢が訪れています。そんな時に、奨学生を支援して、人と人を世界に繋げ、優秀な人材を育てているこの米山記念奨学事業が、今、本当に大切ではないかと私は思っております。

この支援は、皆さま一人一人のご支援によって成し遂げられている事業でございます。月並みですが、私のお願いとして10月に米山月間がありますので、その時にはどうか皆さま、ご協力宜しくお願い致します。

■米山奨学生カウンセラー 大平 明子さん

こんばんは。今日は楊さんが一生懸命パワーポイントを使って日本語でしっかり原稿を作ってくれました。4月に奨学生になられてから、奨学生と学友会の親睦会、研修会、熱田ローターアクトとの親睦会など、積極的に参加されております。今後も私共で彼女を支えて、守っていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



皆さま、こんばんは。楊光心と申します。名古屋市立大学経済研究科の博士2年生です。どうぞ宜しくお願い致します。

今日、皆さまの前でスピーチさせていただける事をととても光栄に思います。今日の卓話のお陰で、初めて自分の今までの人生と、日本での経験を振り返りました。幸せもあり、辛かった事もあり、もちろん成長もあります。今日はここで私の歩みを、皆さまと一緒に分かち合えればと思います。

まずは、私の自己紹介からさせていただきます。私の名前は、楊光心です。人に名前を説明する時はいつも楊貴妃の楊、光の心と説明します。誕生日は1988年7月30日、昭和63年です。出身地は中国黒竜江省伊春市です。中国の国土が非常に広いため、伊春という所は中国人でも知らない人がいます。ですから、大学の時から出身地を聞かれたら、ハルビンと答える事にしました。中国の国土の形はニワトリの様な形で、黒竜江省はニワトリの頭の部分に位置しています。ロシアが一番近い所です。伊春は、黒竜江省の真ん中に位置しています。

私は一人っ子で、家族は父、母、私の3人家族です。父は公務員で、政府で働いています。母は同じ政府の仕事をしていますが、中華レストランも20年間経営しています。そんなに豊かな家庭ではありませんが、非常に民主的で幸せな家庭だと思います。

私の趣味で一番好きなのは、本を読む事です。経営学と心理学に関する本が一番興味があります。コーヒーを飲む事、作る事も好きです。日本に来て、どこにでもコーヒーショップがあって簡単に美味しいコーヒー豆も買える事は、本当に幸せだと感じています。もしこれからチャンスがあれば、コーヒー専門学校に入って真剣にコーヒーを学ぼうかと考えています。また、料理を作る事も大好きです。旧正月には友達を家に呼んで、一緒に餃子を作ったりもします。私はあまり運動神経が良くありませんが、唯一好きなスポーツはスキーです。

続いて、もう少し詳しく私の故郷、伊春について説明させていただきます。黒竜江省と言うと、皆さまは必ずハルビンの事を思い出すでしょう。しかし、私の中では伊春はもっと中国の東北っぽい所だと思っています。伊春はハルビンより寒い所です。一番寒い時期は、平均気温がマイナス35度になります。冷蔵庫は凍らない為にある訳です。しかし、家の中は暖房が整備してありますので、暖房の無い南の都市より冬は過ごし易いです。

伊春は、中国最大の木材産地の1つです。一番有名な木材はアカマツです。近年は環境保護のため、計画的に伐採という政策にしましたので、多くの森林の伐採は禁止されています。ですから、木材を運

送しているトラックが次から次へ走っている光景は見なくなりました。伊春は、中国の東北地方に位置しているので、四季の変化がはっきりしています。この4枚の写真は伊春の春夏秋冬です。右上の写真の水凌花は、まだ零下15度の3月から咲いている伊春の有名な花です。夏は非常に涼しいです。名古屋と比べると伊春の夏は天国の様な所だと思います。

私が一番好きな伊春の季節は秋です。右下の写真は黒竜江省の絶景と言われている霧松です。この様に伊春はいつ来てもとても綺麗な所です。旅行が大好きな私が一番綺麗だと思う所は故郷の伊春です。もし機会があれば、私の故郷に来てください。私がガイドになれば非常に幸いです。

次に、私の学歴を紹介させていただきます。私は普通の中国の学生よりも早く、5歳から小学校に入りました。小中は伊春の学校に通っていましたが、14歳の高校生からは黒竜江省の他の都市の高校に入り、初めて寮生活をしました。大学はハルビン理工大学の外国語学部に入り、日本語を専攻しました。2009年7月に大学を卒業して、10月に初めて日本の名古屋に来ました。その後6年間はずっと名古屋に居ます。日本に来た理由は、言語が大好きで、大学の専攻も日本語だから、日本の文化とこの社会をもっと詳しく理解したいと考えて留学先に決めました。

もう1つ、私の出身地はとても良い所ですが、経済発展が非常に遅れている地域です。そのため、この街から出て大都市に行って事業を發展させ、家庭を作るというのは私の出身地の子供達の夢です。私もそうです。

最後に、私の両親はいつも私の夢を支えてくれて、金銭的だけではなく、精神的にも支援してくれます。いつもやりたいならやりなさい、大丈夫だから、応援するよと言ってくれます。これで私はいつも勇気満々になっています。経営を専攻する理由は、小さい頃からの母の影響が非常に大きいと思います。きちんと大学に入って経営知識を勉強するのは、私が日本に来る時の夢でした。

次に、私の日本での経歴と経験をお話ししたいと思います。2009年の10月に名古屋にある愛知国際学院という日本語学校に入りました。ここで1年半、日本語を学びながら経営知識を自習し、院生の入試試験の準備をしました。ここでの収穫は2つあります。1つは心の成長、もう1つは友達です。心の成長というのは、私たちのクラスは普通の大学のクラスと違い、中国から高卒で日本に来る学生もいますし、大卒でこのクラスに入る学生や、中国で大学を卒業した後、仕事をしてから日本に来る方もいます。ですから、それぞれ考え方が違います。みんな日本に初めて来たときは大きな夢を持っていました。でも、アルバイトもあるし、日本語の能力の限界や色々な制限があり、段々と夢が小さくなっていきました。こんな状況を見ているのは辛かったですが、私はどれだけでも頑張って自分の夢を守りたいと思いました。後は、友達です。日本語学校でできた沢山の友達は今でも親友ですので、これは一生の財産だと思っています。

日本語学校から1年半で、名古屋市立大学経済学部経済研究科に入りました。外国人研究生1年間と院生2年間、この3年間の中で経営の専門知識と、研究の方法を勉強しました。うちのゼミというのは、

多分他の大学と少し違って、社会人と学生と留学生と一緒に授業をします。ですから、ゼミとコミュニケーションは社会人から沢山勉強しました。院生が終わり、もう少し今の研究テーマを続けたいと思ったので、博士の入試試験を受けました。私は将来コンサルタントになりたいと思っていますのでもう少し経営知識を身に付けたいといけません。

日本でのアルバイトの経験もすごく勉強になりました。初めてのアルバイトは、日本語学校の時に電気店で店員をやりました。その時、中国の社長と知り合い、もし興味があったら面接に来てくださいと声を掛けられました。2011年にその会社に入り、去年の10月まで社員のように仕事をしていました。主な仕事の内容は通訳です。中国人の社長が日本に来て、研修や交流会があった場合、通訳をします。夏休みや春休みには、案内人として現地のガイドさんと一緒に国内旅行にも行きました。また、トヨタの生産方式のコンサルタントと知り合う機会があり、彼の通訳になり、去年は毎月1回位中国と一緒に行って現場指導の通訳をしました。これも私の論文の一部として、修士論文に入れました。

日本に来てからの6年間の間に辛い事もありましたし、幸せな事もありました。一番辛かったのは、日本語学校で知り合った親友との別れです。去年4月に友達のほとんどは院生を卒業して、中国へ帰りました。私だけが日本に残りました。でも何とか乗り越えて自分も強くなりました。一番幸せな事は3つありまして、1つは博士試験に合格した事、1つはロータリーの奨学生になった事、あともう1つは恋人ができて、家庭ができた事です。

次に、私の研究内容を少しだけ説明させていただきます。私の修士論文のテーマは、「中国におけるトヨタ生産方式についての研究」です。近年では中国企業の間でマネジメント、特に生産方式の方法に関する学習ブームが起こっています。その中で、特に日本の生産管理方式への関心が高く、トヨタ生産方式を導入、又は学習する企業が増えてきました。しかし、成功した企業、又は長期的に持続している会社は非常に少ないです。

その原因は何処にあるのか、どうすれば中国企業はトヨタ生産方式を順調に導入できるのかを基本的な問題意識として研究しました。また、調査ではトヨタ生産方式を導入し、且つ、成果を上げている企業側に焦点を当てて、この会社の障害を乗り越える幾つかのアプローチを解明しました。この研究は、企業内部の要素だけに注目したもので、つまりミクロ的な研究です。中国は地理的、及び政治的に特有な状況を持っていて、これらの状況は企業の技術導入にかなり大きな影響を与えます。これからはこの色々な要素を考えなければなりません。ですから、この問題意識を持って、マクロ的な視野で「中国における技術移転の現状と課題」をテーマとして博士の研究を続けています。これからの研究は、先ほどの研究テーマを基に、論文と学会の発表をやりたいと思っています。私の先生によると、博士というのは3年間で卒業できる学生は本当に少ないそうです。でも、3年間で卒業し博士号を取るのが私の目標です。チャレンジしてみます。

将来は、自分の今まで勉強した内容を活かして日本のコンサルティングに入って、中国の中小企業を

良くするために、経営生産のコンサルタントになりたいです。これが私の第一希望です。私は日本が大好きですし、日本の会社に入れば学校よりもっと勉強できる所があると思います。だから、これからもし就職する場合は日本で就職したいと思っていますが、私は一人っ子だからもう少し時間を作って親と一緒にいたいと思います。ですから、中国と日本を行ったり来たりする仕事が一番適応かなと考えています。

将来なりたい人間は、すごく純粋ですが、私の母親のような女性です。私の母は、仕事をしながら商売をし、家事や育児も全部上手くやりました。私もそういう女性になりたいと考えています。あと、ロータリーの奨学生になり、特に今年はネパールの地震があって、皆さまが寄付したり、ネパールに行ったり、援助をするのを見て、私もこういう奉仕精神を持った人間になりたいと考えています。

最後に、ロータリーについての感想を少し述べたいと思います。私は今年の4月からロータリーの奨学生になりました。月に140,000円の奨学金をいただいています。実は、去年の10月から、研究と学会発表の準備のためにアルバイトを辞めました。ですから、この奨学金は私にとって非常に有意義で助かっています。しかし、ロータリーの奨学生になる事は、ただの金銭的な意味だけではなく、精神的支えとなり、ずっと頑張り続けられる動力にもなります。また、毎月の例会と親睦会などに参加する事で、成功に対する再認識ができました。

従来の私の考え方は、成功というのは個人的なものでした。しかし、今はこの考え方は間違っていると思います。自分の事ばかり考えるのは成功とはいえません。周りの人の気持ちをよく考慮し、他人との協力、能力があれば隣にいる人に援助する事も非常に大切だと感じています。それに、ロータリーは本当に優秀な人間の集まりです。クラブの皆さまも奨学生の皆さまも、皆さま社会のエリートです。この中にいる私は自分の弱さを感じられます。また、ここで他国の奨学生と交流ができ、言語の勉強ができますし、他国の情報も手に入ります。これからもっと頑張らなければならないと考えております。本当にロータリーの家族に入って良かったです。

以上、ご静聴ありがとうございました。

■ 8 月度理事会 議事録 ■

報告者 坂本 晃さん

日時 2015年8月4日(火) 17:30～
場所 名古屋マリオットアソシアホテル
17F『パイン』
出席者 鈴木、有川、東山、木下、坂本、
宮崎、白藤、武藤、鈴木、水野、
佐々木、朝比、大平、江松

18名中14名参加

◎審議事項

一、特になし

◎協議事項

一、10 / 24 (土) 25 (日) WFF の件
＜幹事 坂本 晃さん＞

(10 / 20 例会変更)

特に例会場は設けず、集合場所と時間を決めて、各自楽しんでいただくこととする。

一、10 / 27 (火) 職場例会の件

＜職業奉仕委員長 武藤 正行さん＞

10月27日(火) 名古屋地裁見学と賀城園での昼食。
マイクロバス乗車人数把握の関係で、早めに案内を出すこととする。

◎報告事項

一、プログラムの件

9 月度・10 月度プログラムについて

＜会場運営・プログラム委員長 山本 郁矢さん＞

10月6日(火)

米山奨学生卓話⇒イニシエーションスピーチに変更

一、9 / 5 (土) 地区補助金事業の件

＜社会奉仕委員長 鈴木 一博さん＞

当クラブ参加者 フットサル 26 名、昼食 24 名の予定
駐車場は、フットサルアリーナ金山の駐車場を利用して、昼食会場へ往復する。

※次回 9 月度理事会のご案内

9月8日(火) 17:30～

第 1147 回例会 (8 月 25 日) のご案内

ゆったり例会

於：四間通レストラン「MATSUURA」